

本人が望む暮らしを、必要な支援とともに。

No.050 2021年10月28日発表 / 2026年10月22日改訂

本人の希望と状態から、必要な支援と安全な環境を一緒に考える構想です。

確認を進めるための整理（当社提案）

01 希望

本人が続けたい暮らしを聞く

02 条件

状態・動線・用具・介助を確かめる

03 調整

専門家と、安全な環境を考える

支援を減らすことより、本人が望む生活を安全に支える。

利用する場面・本人の条件・必要な支援に合わせて確かめます。

同じ場면을、何から確かめるか

No.050 2021年10月28日発表 / 2026年10月22日改訂

使い方を示す架空の例

家族と食卓を囲みたい

見直す関わり

行動を増やすために支援や用具を避ける

改訂後に確かめること

経路・見え方・用具・介助を個別に検討する

家具の配置や動線の調整を検討するときも、本人が望む行為と安全性を一緒に確認します。この例は運動や住宅改修の個別の指示ではなく、専門家へ相談する前提を整理するものです。

本人と専門家で、検討の前提を揃える

No.050 2021年10月28日発表 / 2026年10月22日改訂

1 本人が続けたい暮らしを聞いているか

確認済み / 要確認 / 相談する

2 必要な介護・福祉用具を含めて検討したか

確認済み / 要確認 / 相談する

3 環境変更や活動の調整を専門家と確認したか

確認済み / 要確認 / 相談する

4 希望の実現・負担・不安・安全性を確認するか

確認済み / 要確認 / 相談する

説明できる範囲と、確認が必要なこと

No.050 2021年10月28日発表 / 2026年10月22日改訂

本構想について、筋力・認知機能の向上、血圧変動の抑制、介護の不要化を示す効果量や比較結果を、本記事では提示していません。企業の人材開発で得た知見を、住環境における医療・介護上の効果が検証された証拠として扱いません。

転倒・転落の防止と居住者の状態に応じた個別の設計上の配慮を参照しました。本構想の健康効果を検証した資料ではありません。

参照した一次資料

国土交通省「高齢者が居住する住宅の設計に係る指針」（2022年3月31日最終改正の掲載版）

<https://www.mlit.go.jp/common/001267569.pdf>

今回改めたことと、資料の使い方

No.050 2021年10月28日発表 / 2026年10月22日改訂

「バリアフリー化は原則行わない」という方針を取り下げ、筋力・認知機能・血圧等への効果を断定する説明を改めました。必要な介護・福祉用具を活かし、本人の希望と状態に応じた安全な環境調整を前提に、表題・本文・図・添付PDFを改訂しました。

発表当時の記録を保持し、改訂内容と日付を示します。本資料の例や確認項目は、個別の条件に合わせて使うための提案です。

現在の公開資料と使い方の案内

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000343.000068315.html>

お問い合わせ：リクエスト株式会社

request@requestgroup.jp

<https://requestgroup.jp/request>